

令和2年度 福島県立聴覚支援学校会津校 学校評価アンケートのまとめ

【評価者】 保護者5名 教職員6名 【評価基準】 A:良い B:やや良い C:やや不十分 D:不十分 【意見・要望等】 ○:概ね達成できた △:さらに取り組むべきこと ●:課題(改善が必要)

	今年度の取り組み		評価				【保護者】改善を要する事項・意見・要望等	【教員】改善を要する事項・意見・要望等
			A	B	C	D		
I-1 自立と社会の参加に向けた	1 交流及び共同学習を充実させ、集団での学びの経験を通して、社会生活に必要な知識や技能、態度を育てます。	保護者	5				○家庭で困っていることを相談すると、すぐに対応しアドバイスをいただけ大変助かっています。 ○新型コロナウイルス感染症の大変な中でも、交流及び共同学習やオンラインでの交流などを実施してもらって大変良い経験をさせてもらっています。	○感染症対策をしたり、きめ細やかに連絡を取り合ったりして計画的に交流及び共同学習ができてよかった。 ○交流については居住地校に協力をいただき、定期的に行うことができよかった。 ○居住地校交流については、新型コロナウイルス感染症の関係で2学期からの実施だったが、居住地校のご理解もあり、回数的には例年通り実施できてよかった。
		教員	5	1				
	2 関係機関と連携しながら「個別の教育支援計画」を活用し、切れ目のない支援を行い、発達段階に応じた生活習慣と社会性の育成を図ります。	保護者	5					○語彙の定着と活用、学力向上にいろいろと工夫して取り組むことができた。 △今年度は休校や感染症対策の影響もあり、なかなか自分で決めたことを最後まで取り組ませてみる機会がなかったが、年度末の児童会活動などで挑戦させてみた。
		教員	1	5				
I-2 学力の向上と豊かな心の育成	1 地域との連携を大切にし、読み聞かせボランティアや手話サークル等を積極的に活用し、読み取る力や語彙力の拡充を図り、豊かな表現能力を育てます。	保護者	5				○学習の中で、できることが増え、ほめてもらい、認めてもらえることで安心してがんばる姿をみることができ、感謝しています。	△少人数だが「伝わるだろう」、「伝わらなくてもまあいいか」という気持ちにさせずコミュニケーションの力を育てたい。 ●手話に親しむ全体自立活動やピッキオ読み聞かせ後の自立活動がグループや学級ごとになってしまったので、他の児童の様子が分からなかった。どこかで情報共有できる場があるとよりよい。
		教員	5	1				
	2 体験活動を通して、自ら考え、判断し主体的に活動できるよう指導します。	保護者	5				○自分から伝えようとする姿が多くなり、やりとりも充実してきています。	
		教員	3	3				
	3 「個別の指導計画」を活用し一人一人の実態に応じた授業の充実及び質の向上を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを大切にしながら学力の向上に努めます。	保護者	5				○個人の学習のサポートは、たくさんのご配慮をいただいて助かっています。学習だけでなく、毎日のクイズの出題や行事の時に担任以外の先生方にも課題等をもらい、様々なアプローチがあり飽きずに取り組んでいるようです。今後も様々な課題をお願いします。	
		教員	2	4				

	今年度の取り組み		評価				【保護者】改善を要する事項・意見・要望等	【教員】改善を要する事項・意見・要望等
			A	B	C	D		
I-3 聴覚障がい教育の専門性の向上	1 情報保障機器の活用や多様なコミュニケーション能力の向上に係る研修を通して、聴覚障がい教育の専門性の向上に努めます。	保護者	4	1			△自立活動の時間等で、保護者も一緒に勉強(手話等)する時間をつくってもらうのは可能でしょうか？新型コロナウイルス感染症の影響もあり、なかなか難しいとは思いますが・・・ △人工内耳のトラブルの際の対応について、どのように対処するかについて確認する場を作ってもらえたらと思います。 ○いろいろな方法を使って、相手に「伝わるように伝える」のがまだ難しいですが、日々の学校生活で気持ちを伝える場面、経験を学ばせてもらっていると感じます。	△職員全体で幼児児童一人一人の実態を共有した上で、積極的にコミュニケーションをとるようにしたい。また、幼児児童間でのやりとりも大切にしていきたい。 ○大西先生と松本先生にご指導いただけて大変勉強になって良かった。
		教員	4	2				
	2 音声、文字、手話、指文字等のコミュニケーション手段を適切に活用して、自分の考えを相手にわかりやすく伝えるコミュニケーション能力と伝えようとする意識を高める指導を行います。	保護者	5					
		教員		6				
	3 考えを深め、広がる授業づくりと一人一人の言語活動の充実を図るため、外部講師の活用や研究授業を積極的に行い、授業改善に努めます。	保護者	5					
		教員	5	1				
II 安全で安心な学校づくり	1 体力づくりと食育について、家庭と連携しながら進め、体力の向上や健やかな心身の発育を促進します。	保護者	4	1			○食育については、毎年実施もらい見直すきっかけになっています。また栄養技師との面談等もあり、改善できた点も多くあると思います。 ○体力づくりでは、新型コロナウイルス感染症の影響で外に出ることも少なくなっているため、運動ができています。野球やサッカー、トランポリンなど様々な運動を幅広く楽しんでいます。 ○交通安全教室、避難訓練等の実施により、本人の意識が高まってきたように感じます。	△放射線教育については、3学期に実施を予定している。 △会津地域は災害(台風、洪水、地震等)の影響が比較的少ないため、防災の意識がもちにいくと感じる。日頃より児童の防災への意識付けをしていきたい。 ●学校全体で防災教育や放射線教育の授業や講話を聞く機会が年々減ってきているように感じる。学級だと担任によって情報がバラバラになってしまうので、地震等が起きたときはどうするか等を児童集会等でしっかりと子どもへ伝えていくことが必要だと思う。
		教員	4	2				
	2 校舎内外、通学路等の安全点検等により、幼児児童が安心して安全に活動できる環境の確保に努めます。	保護者	4	1				
		教員	5	1				
	3 災害発生時の安全に対する意識を高めるために、防災・放射線教育等の充実を図ります。	保護者	5					
		教員	2	4				
III センター的機能の充実	1 医療や福祉等の関係機関と地域支援センターが連携し、乳幼児早期教育相談の充実を図ります。	保護者	4	1			○医療機関や療育先との連携をしていただいております。不安な面も情報共有してもらっているため安心です。新型コロナウイルス感染症が落ち着いた頃に、STの先生にも学校の様子を見せてもらいたいと思っています。	○担当者だけでなく、複数の教員で教育相談をすることができてよかった。 △3学期はみみちゃん教室を継続利用しているケースについて検討会(研修会)を実施したい。
		教員	6					
	2 地域の学校等に在籍する聴覚障がいのある子どもについて、一人一人の教育的ニーズに応じた切れ目のない支援を行います。	保護者	5					
		教員	6					
	3 地域の教育関係者や保健師等との連携により聴覚障がいのある子どもの支援に関する情報を受信、発信するとともに地域のニーズに応じた研修会や学習会を開催します。	保護者	5					
		教員	6					